

### 第3回 大牟田市まちなか活性化協議会 摘録

- 日 時 令和6年7月10日（水） 15:00～16:00
- 場 所 大牟田市役所 企業局3階講習室
- 参加者 委 員：15名（うち欠席2名）  
事 務 局：5名（大牟田市まちなか活性化推進室）

#### □ 会議概要

1. 開 会 ～進行：事務局

2. 挨拶 ～挨拶：まちなか活性化推進室 丸山室長

3. 委員紹介 ～事務局

4. 議 事 ～進行：議長（正木会長）

（1）役員の選出について

会長選任 ～説明：議長（正木会長）

委員からの立候補、推薦なし、事務局案により正木委員を会長に推薦。

～ 異議なく承認 ～

会長挨拶 ～挨拶：正木会長

副会長選任 ～説明：議長（正木会長）

正木会長より、山田委員を副会長に指名し、山田委員は承諾。

副会長挨拶 ～挨拶：山田副会長

（2）まちなか活性化プログラム掲載事業の令和5年度実施状況について【報告】

資料1 「まちなか活性化プログラム掲載事業の令和5年度実施状況、

別紙3 「令和5年度の主な事業」に基づき報告

～資料説明：事務局

#### 【質疑応答】

（委 員） 令和6年4月に大牟田市ビジネスサポートセンターが開設されているが、開設後の状況報告等を教えてほしい。

（事 務 局） 令和6年度の取組みで状況把握ができていないため、後日、状況等の報告させていただきます。

（委 員） 大牟田の「まち、いこ！ Gyan フェス」というのが、中心となって市内の「二十日えびす」や「おおむた百円玉笑店街」等いくつかの事業が連携する形で実現したと思う。

説明の中でも、大変賑わいの相乗効果があったとの報告があったが、具体

的な効果や通常と違う賑わいが生まれていたというお話を伺えればと思う。

(委員) 昨年11月5日は、13団体程度がイベントを合同開催ということで、大牟田商工会議所の青年部の旗振りで、それぞれの団体が出席して、中心市街地といわれる所でのイベント開催となった。

私共の団体は、以前から「100円玉商店街」で3回ほど開催していたが年々好評を得て広がりを見せていたことから、合同開催をして、頑張っ

て街を盛り上げようという気持ちで参画している。そこで、先ほどの報告のとおり、いろんな団体のイベントが同時に開催されたことで、まちなかの賑わい創出としては凄く盛り上がったという思いがある。

しかし、マイナス面として、いろんな団体がそれぞれの催しをしていたので、来街者の皆様は、非常にスピーディな動きをとらざるを得なかったため、まちの回遊性の部分では、非常にバタバタしたような形でイベントを体験された感じが見受けられた。またイベント後の「100円玉商店街」の参加店のアンケートでも、同じような意見が多かった。

腹案的な意見であるが、様々なイベントを一日で行うのではなく、例えば、その月を「まちなか賑わい創出月間」のような形で、毎週日曜日や月に2回などに団体が分かれて、まちなかでイベントをすると非常に来街者や市民の方、もしくは創業者の方々も賑わう機会が増え、お客が来てくれるものと思う。

それぞれの団体が、月に複数回に分けてイベントを行っていただければとてもありがたいと感じた。

### (3) 成果指標及び参考指標の状況について【報告】

資料2 「成果指標および参考指標の状況について」に基づき報告

～資料説明：事務局

#### 【質疑応答】

(委員) 成果指標3のまちなかに居住した若者の数をすごく注視して見ているところで、シェアハウスができるだけ早く出来て、2～3か月の短期間での居住も考えていただきたい。

国家試験前には遅くまで大学に残って勉強している生徒や遠くから通っている生徒は、通学などの時間がもったいないということもあるので、短期の居住ができるシェアハウスを考えていただきたい。そういうのが広がれば、空き家を綺麗にして、学生の居住が進めていければ、大学の合格者にも居住を勧めることができるかなと思う。

(事務局) 現在、わかもの会議のプロジェクトで、シェアハウスのDIYを進めている。1つ成功事例ができれば、広がっていくのではないかと考えており、今進んでいるプロジェクトをしっかりと支援をして成功につなげたいと考えている。

(4) まちなか活性化プログラムの更新内容について

資料3 「まちなか活性化プログラムの更新内容」に基づき説明

～資料説明：事務局

【質疑応答】

無し

～承認～

(5) 令和6年度の主な事業について

資料4 「令和6年度の主な事業について」に基づき説明

～資料説明：事務局

【質疑応答】

(委 員) リーディングプロジェクト②の令和6年度の事業予定の中に空き店舗所有者の実態やニーズの把握を目的として、アンケート調査の実施として23件を予定されているが、調査店舗は既に指定されているのか。

(事 務 局) 調査対象の23件は、既に候補の店舗を決めている。中心市街地の空き店舗は、23件よりも多く存在すると認識しており、今後その状況を見ながら令和7年度以降に広げる可能性もあると思っている。

(委 員) 調査対象の23件の地区は、分散しているのか、またはある程度のエリアに絞っているのか教えてほしい。

(事 務 局) 調査エリアについては絞っており、宮前通り付近などのエリア等でアンケート調査を行いたいと考えている。

(委 員) リーディングプロジェクト③のイノベーション創出プロジェクトの aurea (アウレア) への運営補助は、令和5年と同じような規模感での補助を考えているのか。

(事 務 局) 令和6年度につきましても概ね昨年度と同様の予算で支援を行う予定である。

～承認～

5. その他

【質疑応答】

(委 員) 若者による、まちづくり活動がされているということを知らなかったが、こういう活動をしているということを大学側へ周知をしているのか。

(事 務 局) わかもの会議の活動は昨年度から正式に発足しており、ミーティング等のイベントを開催する際には市内の高校、大学へ情報を共有し、学生への周知をお願いしている。

市も、学生の皆様へちゃんと周知したいと考えており、今後、工夫をして連絡や周知したいと思っている。

(委員) まちなかストック事業の話では、空き店舗の活用に話がいつてしまうが、観光協会としては大牟田に旅行客を招き入れたいという思いが大きい。残念なことに現在は、宿泊施設が非常に少ない状況で、いろんなイベントをやるにしても他市の宿泊施設を利用されている。まちなかの店舗ではなく、空き家をリノベーションして、宿泊施設として考えたいという方もいるので、空き家をリノベーションすれば宿泊施設になるという情報を、公開してもらい、宿泊施設を大牟田のまちに増やしていきたい。

来年、市内に300室の大きなホテルができる予定ではあるが、それでも全然足りない状況だと思う。まちなかで宿泊して、そこで食事をするなど、来街者が回遊するようになれば、まちなかの活性化に繋がると思うので、今後の課題として、検討いただければと思う。

(事務局) ストック活用事業については、まちなかの商店街がこれまでのベースであったことから、1階部分の店舗の活用というのが最初の重点ということで進められてきた経過があると思う。

しかし、これからのまちなかの活性化を考えていく中では、どうしても昔の商店街だけでは、なかなか厳しいものがあるのかなと考えており、そういった中では、まちなかに新しい価値というのを生み出すヒントとして、お話があった宿泊というのが、これまで無かった価値であると思っている。例えば、建物一棟全部ではなくとも一つの部屋だけのゲストハウスなどの民泊に活用等もできると思っているので、研究させていただき、これからの活動に反映できればと思う。

(委員) まちなかストック活用事業について、委員からの宿泊施設の提案と事務局から回答されたところだが、資料4にもご案内があるが令和6年度から、市はこれまで店舗改修の補助事業に、大規模リノベーションの事業を新設している。

市としても中心市街地に様々な形で、いろんな機能を展開してしたいということで、建物一棟全てを用途変更して、話にあったようにホテルや宿泊施設にするということもあると思う。具体的な内容としては、改修の工事費の10分の2(上限1,000万円)の補助制度を、今年度に新設しているので、こういう情報の提供を行いながら、まちなかの機能を付加していきたい。

(委員) 外国の方がたくさん来ると、オーバーツーリズムということで大変だとテレビでもあっているが、市内には、たくさん外国の方も働いておられて、大学との交流もあったりする。あまりにも多くの外国の方が来るとも課題がでてくるかもしれないが、人口減少や来街者が少ないのであれば、外国の方が来てもらえるようなことも考えにいれながら、取組み進めるのも、一つの案と思っている。

(事務局) これまで中心市街地の活性化と観光は、あまり接点をつくるということ

は無かったと認識しているが、興味を持たせて外国の方が来られるように、これから考えて行かないといけないと思う。

外国人旅行者の中には、長期間に渡ってお金を少しずつ使いながら、国内を観光される方も多い。そういった中で、バックパッカーついで動いておられるような旅行者の方には、きちんとしたホテルよりも、安く素泊まりできる部屋があればよく、ニーズとしてもある。そういった中では、まちなかの空き部屋を貸すようなサービスができれば、市内にホテルでなくても宿泊という機能は付加されていくので、そういったことを現在考えている。

(委員) 観光客としては、円安の関係もあり、様々な方が国内に来られているが、大牟田市内として外国の観光客の方が、他市で言うオーバーツーリズムのような状況までは至っていないというのが実態。

それから外国の方でいうと、技能実習生の方、比較的ベトナムの方が市内におられる。こういった方々に対してどういう風にまちなかで生活をしやすいか、あるいは観光をやりやすくするかというのを市としても課題として考えており、昨年度は市内の観光のパンフレットを4カ国語対応で作り、外国の方にも分かりやすいような対応を行っている。

また、駅に着いてから主要観光施設に行きたいという方については、サインの整備が重要になってくると思っており、明治産業関連遺産は、英語表記も行っているが、大牟田市動物園などの施設も配慮するようなサイン整備が必要と考えており、当面の課題として思っている。

## 6. 閉 会 ～事務局

事務局より、次回の協議会開催は、令和7年7月を予定している旨を連絡。